

# 自然遊学館 だより

## No.106

### 2023 SPRING



新展示：「イワシの群れ」のディスプレイ

2023. 5. 31 発行 貝塚市立自然遊学館

## 目次

### \* ネイチャーレポート

- 2022 年度冬期に二色の浜で多く打ち上げられた  
コンゴウフグ  
..... 山田浩二 ... 1
- 貝塚冬尺祭  
..... 鞍井依子 ... 2
- 和泉葛城山昆虫調査 2022  
..... 岩崎 拓 ... 3

### \* 行事レポート

- 打上げ貝拾い  
..... 山田浩二 ... 5
- ノリすき体験 西鳥取漁港  
..... 秋山芳樹 ... 7
- せんごくの杜&近木川河口バードウォッチング  
..... 和田太一 ... 7
- ワークショップ 苔テラリウムを作ってみよう  
..... 天満和久 ... 9

### \* 泉州生きもの情報

- 二色の浜に多く打ち上げられたタツナミガイ  
..... 山田浩二 ... 10
- 自然生態園でカニ蟲の仲間を発見  
..... 鞍井希風 ... 11

### 自然生態園でトゲヒシバツタを採集

- ..... 鞍井希風 ... 11
- 生きた化石といわれる「ムカシトンボ」  
..... 鞍井希風 ... 12

### \* 身近な植物

- ホトケノザとナズナ  
..... 湯浅幸子 ... 13

### \* 調査速報

- 貝塚市二色の浜と近木川周辺の鳥調査 27  
..... 鈴子勝也 ... 13

### \* 館長コーナー

- 新たなスタイルの『自然遊学館だより』  
..... 秋山芳樹 ... 14

### \* 皆様からの情報コーナー

- 飼育日誌 長寿のカブトムシ  
..... 高橋千尋 ... 14
- 寄贈標本・写真 ..... 16

### \* スタッフ日誌 ..... 17



ネイチャーレポート

2022 年度冬期に二色の浜で  
多く打ち上げられたコンゴウフグ

コンゴウフグ *Lactoria cornuta* はフグ目ハコフグ科に属する海水魚で、インド洋から太平洋に分布し、内湾の浅所に生息しています(林・萩原、2014)。体は箱型、黄色い体色で、頭部に2本の<sup>つの</sup>角のような<sup>がんじょうきよく</sup>眼上棘と、腹部後端にも2本の棘が長く伸び、恰好のいいフグです。大きくなると全長45cmほどになります(新野、2004)

貝塚市二色の浜では、コンゴウフグの幼魚が夏場に泳いでいるものが採集されたり、冬場に砂浜に打ち上げられているのが時おり確認されています。自然遊学館では2002年11月の標本をはじめ、これまで9個体を所蔵標本として保管しています。

2022年12月から2023年2月にかけて、計11個体のコンゴウフグの幼魚が打ち上げられました(表1)。これまで、単年度では本種の打上げは1個体あるかないかの記録でしたので、この冬期は例年に比べ多くの個体が打ち上げられたといえます。



図1. 打ち上げられたコンゴウフグ幼魚たち  
(二色の浜 2022年12月19日)

表1. 2022年度冬期の二色の浜でのコンゴウフグの打上げ記録

	体長 (mm)	全長 (mm)	採集日	採集者	登録番号
1	71.4	109.3	2022/12/19	丸山幸代・山田浩二	
2	92.2	142.5	2022/12/19	丸山幸代・山田浩二	
3	68.6	107.6	2022/12/19	丸山幸代・山田浩二	P699
4	65.9	104.8	2022/12/19	丸山幸代・山田浩二	
5	66.0	98.6	2022/12/19	丸山幸代・山田浩二	
6	56.2	88.2	2022/12/19	丸山幸代・山田浩二	
7	60.3	93.5	2022/12/21	山田浩二	P700
8	85.4	115.0	2022/12/29	匿名市民	P701
9	82.4	123.1	2023/1/7	丸山幸代・山田浩二	P702
10	73.7	111.0	2023/1/7	丸山幸代・山田浩二	
11	67.6	96.0	2023/2/11	中新運希	P703

本種は南方の暖かい海域が主な生息域なことから、大阪湾における過去の報告は限られています(松岡・花崎、2016)。紀伊半島以北は幼魚のみが記録されている(林・萩原、2014)ことから、大阪湾では成魚になることなく、冬場の低水温で幼魚たちは越冬できずに死亡して打ち上げられていると考えられます。このように夏場、南の暖かい海から黒潮に乗って幼魚たちが来遊してきますが、越冬できずに死亡する魚たちのことを<sup>しめつけいゆうぎよ</sup>死滅回遊魚と呼びます。これらのグループとして二色の浜においては他にも、オヤビッチャやチョウチョウウオの仲間などが確認されています。

引用文献

新野 大 (2004) 大阪湾の生きもの図鑑、東方出版。  
 林 公義・萩原清司 (2014) ハコフグ科コンゴウフグ。日本産魚類検索 全種の同定 第三版(中坊徹次)、P.1724, 東海大学出版会。  
 松岡 悠・花崎勝司 (2016) 岸和田市で採集されたコンゴウフグ。Melange.15 (3) :17-18。

(山田 浩二)

## 貝塚冬尺祭

夢が叶った！希風と二人、冬の夜空の下で大笑いしました。その発見は珍しいだけではなく、埋立地であるにもかかわらず、希少な自然のサイクルを生みだしていたという確固たる証明だったからです。2023年2月12日、自然生態園でシロフフユエダシャクの雄を採集しました。



図1. シロフフユエダシャク  
(自然生態園 2023年2月12日)

2022年2月にも、同じく自然生態園でシロフフユエダシャクの雄を採った喜びを自然遊学館だより102号に綴りました。その記事の最後はこう締めくくりました。冬にまたこのフユシャクの次世代に出会えることを夢みしてみようと思います。

そう、その夢が叶い、再び会うことができたのです。昨年時点では、何かについて運ばれてきた個体かもしれないという疑念を拭ききれませんでした。しかし、2年連続で採集できたことから、十分ここで繁殖していると推測されます。昨年会ったあの子のこどもかしら？そう思うだけで胸が高鳴ります。希風と顔を見合わせ、雌がいるはずだ！と雌を必死に探しました。

結局、見つけることはできませんでしたが、きっときっと雄をフェロモンで呼び寄せている雌がいるはずと、期待せずにおれません。今

後も定期的にフユシャクパトロールを続けていこうと決意しました。これからもここで世帯を繰り返していてくれますように。

と、話はここで終わらなかったのです。このシロフフユエダシャクの雄との出会いは2月19日に開催された冬尺祭のプロローグだったのです。

冬はどうしても目にする昆虫が減ってしまいます。いないのではないということは百も承知の上でのことですが、やはり根気強く探さなければ見つかりません。そんな冬の昆虫採集で「フユシャク」はだれもが憧れるスターのように見えはじめました。

希風は去年から熱心に冬尺を探しつつ、実際に発見することを繰り返すたびに手ごたえを感じていたのでしょう。祭当日、ずっと降っていた雨も上がり、日暮れ間近に突然蕎原に行ってみたく何かを思いついたように言い出しました。



図2. ホソウスバフユシャク  
(蕎原 2023年2月19日)

ライトの明かりだけを頼りに山道を進みます。そんな中、突然、空中にヒラヒラと舞う白いものが見えました。フユシャクです！見失わないように、みんなで必死にライトを当てます。昆虫網を使って採ることができました。ホソウスバフユシャクではないかと思われまます。さきほどと同じ場所でまたしても闇夜を飛ぶホソウスバフユシャクを見つけました。



同じ場所に雄が2匹。間違いなく雌がいる…。しかし、どうしても雌が見つかりません。少し進んだ場所で立て続けに3匹のホソウスバフユシャクの雄を採りました。ここにも雌がいるであろうに、どうしても見つかりません。随分頑張りましたが、結局雌は見つけることはできませんでした。しかし、雄がなんと5匹、希風がうれしそうに笑いました。「冬尺祭やー」

こうして憧れの昆虫を手にとり、藪原を後にしたのです。その帰り、立ち寄った桜の木が植えられている土手で祭のフィナーレの花火があがります。一度、虫を見てくると車から降りてすぐのことです。

「メス！」希風の若干素っ頓狂な声が上がります。「メス！メスやー」慌ててケースを持って走り寄ります。いました！まさしく翅を持たない雌のフユシャクです！看板の下部にしがみついています。何より驚いたのはそのサイズです。昨年、シロトゲエダシャクの雌を加太で採っていたのですが、そのイメージで探していたので体長が1.5cmはある気がしていました。しかし、今回見つかった雌の体長はわずか0.7cm…。これを木の幹上で見つけるのは至難の業です。一般的にいわれている手すりなどの人工物の上で見つかる説があるのですが、これは逆に、「人工物の上でしか見つけることができない」、が正しいのではないかと思うほどです。そして思いのほか、動きが非常に素早いのです。例えるなら蜘蛛のように動きます。ぽってりした体に細い脚、きつと歩くのは得意ではないだろうと予想していましたが、このスピードで動けるのかと驚きました。これならあつという間に見晴らしの良い人工物のうえに登り、雄をよび、再び幼虫が食べる葉の木に戻って卵を産むことなどお手の物ではないでしょうか。

その直後、もう1匹雌を見つけました。ポー

ルにしがみついていた。少し大きいですが、体長約1cm。木の幹肌に同化しそうな模様で、この大きさではどうも太刀打ちできません。諦めたらそこで終わりや、と希風が笑っていました。寒さにも疲れにもめげず、見つかる気がしなくとも諦めない。すると、こんな楽しい出会いが待っているのです。今日はまさしく冬尺祭、さて、来年も開催することはできるのでしょうか？



図3. シロトゲエダシャク  
(三ツ松 2023年2月19日)

#### 参考文献

鞍井依子 (2022) 冬の風物詩探求. 自然遊学館だより, No. 102 : 3-4.

鞍井希風 (2022) シロトゲエダシャクのメスを発見!. 自然遊学館だより, No. 102 : 11.

(自然遊学館わくわくクラブ 鞍井 依子)

#### 和泉葛城山昆虫調査 2022

2022年も和泉葛城山の山頂付近(標高約800~858m)において、4月から12月までの各月に1回、ルートを決めて3時間程度の昆虫調査を行いました。

### 1. 大阪府レッドリスト種

絶滅危惧Ⅱ類のナキイナゴは15年連続で確認されています。準絶滅危惧では、オツネトンボ、ミヤマアカネ、ヒトコブササキリモドキ、ハルゼミ、エゾゼミ、セダカテントウダマシを確認しました。このうち、ハルゼミとエゾゼミも15年連続の確認です。



**図1. セダカテントウダマシ**  
(コウチュウ目テントウダマシ科、2022. 6. 9)

ミヤマアカネは昨年まで7年連続で8月に確認されてきましたが、今年は8月のほか10月にも確認されました。

### 2. 注目種

貝塚市内での確認例が山頂付近に多い種や、2014年の大阪府レッドリストでランク外とされた種などを中心にリストアップしています。

2021年の速報では、ホソクビツユムシが増えてアシグロツユムシが減少した可能性があると書きましたが、2022年はツユムシ科の確認自体がゼロになってしまいました。山地性のカメムシの確認も、昨年輪をかけて減っています。

チョウ類の注目種では、ヒオドシチョウ(図2)とアサギマダラを確認しました。アサギマダラは調査開始以来、15年連続の確認です。



**図2. ヒオドシチョウ**  
(チョウ目タテハチョウ科、2022. 4. 7)

### 3. その他

アオマツムシは2017年から6年連続で確認されました。大阪府側でも鳴き声を聞くようになっていました。以前は山頂の普通種だったヒメツユムシは5年ぶりに1個体だけ確認しました。ツユムシ科に加えて、ササキリモドキ科も減っているグループです。

2008年の調査開始以来、カマキリ目ではオオカマキリしか確認していませんでしたが、2022年はヒメカマキリも確認できました(図3)。また別に、自分の調査区域外ですが、稜線西側からやや北向きに下った場所で、鞍井希風さんが2022年3月21日に、ヒナカマキリの卵囊を確認しています。



**図3. ヒメカマキリ**  
(カマキリ目ヒメカマキリ科、2022. 11. 4)

チョウ類に関しては、計 27 種を確認しました。6 月恒例となったテングチョウの群飛は、2020 年と 2021 年の 300 個体以上よりは半分以下の個体数でした。調査開始の 2008 年から 2014 年まで確認されなかったジャコウアゲハは、2015 年から 8 年連続での確認となりました。

以下、大阪府レッドリスト種、注目種、自然遊学館に標本がなかった種の確認日（2022 年の月/日）を示しました。日付の後の「\*」印は幼虫での確認を示し、無印は成虫での確認です。

#### 大阪府レッドリスト種

絶滅危惧Ⅱ類

ナキイナゴ 6/9、7/7

準絶滅危惧

オツネトンボ 11/4

ミヤマアカネ 8/5、10/3

ヒトコブササキリモドキ 8/5

ハルゼミ 5/19、6/9、7/7

エゾゼミ 7/7、8/5、9/12

セダカテントウダマシ 6/9

#### 注目種

チビクチキウマ 8/5

オオトビサシガメ 11/4

トゲカメムシ 5/19\*、9/12

ヒオドシチョウ 4/7

アサギマダラ 7/7、9/12、10/3

シダクロスズメバチ 12/3

#### 自然遊学館に標本がなかった種

ウスベリケンモン 6/9 (図 4)

キマダラヒゲナガゾウムシ 7/7

ヒメキンムシヒキ 8/5



図 4. ウスベリケンモン  
(チョウ目ケンモンガ科、2022. 6. 9)  
消防の看板に止まっていた

#### 引用・参考文献

『大阪府レッドリスト 2014』(大阪府、2014)

(自然遊学館わくわくクラブ、岩崎 拓)



#### 行事レポート

##### 打上げ貝拾い

日時：2023 年 1 月 21 日(土)10:00~12:00

場所：近木川河口右岸前浜

参加者：29 人(うちスタッフ 11 人)

毎年、北西風の強い冬季に行っている海辺での打上げ貝拾いを行いました。講師は長年、泉州の貝を調べられている児嶋 格さんと大古場 正さんです。波打ち際と並行して木片やプラスチック類が多く漂着している「打上げ帯」と呼ばれる場所では、アサリやマガキなどの貝殻が目につきます。さらに注意深く探すとコシダカガンガラやアッキガイなどの巻貝や、フネガイ科などの二枚貝などが宝探しのようにつかれます(図 1)。





図 1. 採集の様子

1 時間ほど採集した後、館の方へ戻り、どんな種類の貝殻が集まったのか、講師から種名を教えてくださいました。集計したところ、海産種 50 種（巻貝 23 種、二枚貝 27 種）、淡水産 4 種、陸産 5 種という結果でした。

今回、拾い集めた生きもののリストを表 1 に記します。

また、自分の拾った貝殻の中からお気に入りのものを選んで、紙皿に貼り付ける工作を行いました。このようにして完成した貝殻標本壁飾り（図 2）は記念に持って帰って頂きました。



図 2. 貝殻標本壁飾り

海辺（近木川河口）の打ち上げ観察会

		グループ	和名	2023/1/21 29人
1	腹足綱	ヨメガカサガイ科	ヨメガカサ	rr
2		ユキノカサガイ科	クモリアオガイ	rr
3		ニシキウス科	コシダカガンガラ	c
4			アシヤガイ	r
5			インダタミ	r
6		サザエ科	スガイ	rr
7		アマオブネガイ科	イシマキガイ	c
8		タマキビ科	タマキビ	r
9		ウミミナ科	ウミミナ	r
10		カリバガサガイ科	シマメノウネガイ	c
11		ムカデガイ科	オオヘビガイ	r
12		タマガイ科	ツメタガイ	r
13			ハナツメタ	rr
14			ネコガイ	rr
15			エゾタマガイ	rr
16		アッキガイ科	レイシガイ	r
17			イボニシ	c
18			アカニシ	r
19		フトコロガイ科	ムギガイ	c
20		ムシロガイ科	アラムシロ	c
21			ヨフバイ	rr
22		トウガタガイ科	ヨコイトカケギリ	rr
23		カラマツガイ科	カラマツガイ	rr
24	二枚貝綱	フネガイ科	コベルトフネガイ	rr
25			カリガネガイ	r
26			サルボウガイ	c
27		イガイ科	ムラサキイガイ	r
28			ホトギスガイ	cc(L)
29		ナミマガシワ科	ナミマガシワ	cc(L)
30		イタボガキ科	マガキ	cc
31			イワガキ	rr
32		ツキガイ科	イセシラガイ	rr
33		キクザルガイ科	キクザル	rr
34			サルノカシラ	rr
35		ザルガイ科	トリガイ	rr
36			チゴトリガイ	rr
37		バカガイ科	バカガイ	r(L)
38		チドリマスオ科	クチバガイ	cc
39		ニッコウガイ科	サクラガイ	r
40			ヒメシラトリガイ	r(L)
41			ユウシオガイ	rr
42		シオサザナミガイ科	イソシジミ	rr
43		マテガイ科	マテガイ	r(L)
44		フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ	rr
45		シジミ科	ヤマトシジミ	rr
46		イワホリガイ科	セミアサリ	rr
47			ウスカラシオツガイ	r
48		マルスタレガイ科	オニアサリ	r
49			カガミガイ	rr(L)
50			アサリ	cc
51	淡水産	タニシ科	ヒメタニシ	rr
52		リンゴガイ科	スクミリンゴガイ	cc
53		サカマキガイ科	サカマキガイ	rr
54		シジミ科	セタシジミ	rr
55	陸産	アズキガイ科	アズキガイ	rr
56		キセルガイ科	ナミギセル	rr
57		オナジマイマイ科	オオケマイマイ	r
58			ナミマイマイ	rr
59			クチベニマイマイ	rr
60	甲殻類	ミョウガイ科	カメノテ	rr
61		フジツボ科	タテジマフジツボ	c
62		ガザミ科	タイワンガザミ	rr
63		モクズガニ科	モクズガニ	rr
64			ケフサイソガニ	rr
65			ヒライソガニ	r
66	ヒトデ類	モミジガイ科	トゲモミジ	rr
67	多毛類	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ類の棲管	r
68		ナナティソメ科	スゴカイソメの棲管	rr
計				68

凡例：数量……cc 多数、c 普通、r 少数、rr ごく少数 生体確認……(L)

(山田 浩二)

## ノリスき体験 西鳥取漁港

日時：2023年2月4日(土)10:00~12:00

場所：阪南市西鳥取漁港

参加者：30人(うちスタッフ6人)

冬晴れの強い北風で形の崩れた雲が断片雲となって、大阪湾の上空のところどころに浮かんでいる。

2月4日、毎年お世話になっている西鳥取漁港名倉勲さんのご指導で、ノリスき板のり作りを先着順で申込のあった20名で体験しました。「ノリスき」も紙の原料をすいて和紙を作るような要領でします。具体的には、細かくきざまれた生ノリを升ですくって、四角い枠を乗せた簀(すのこ)の上に流し込み、ノリを板状にします。海苔の付いた簀を木の枠にかけて天日干しにし、乾燥させて出来上がります。初めのうちはノリが厚く重なったり穴が見えたりして、均一な板のりを作るのに苦心しましたが、次第に技量が上がり、名倉さんの機械化されたノリ生産まではいきませんが、100枚以上の板のりが出来上がりました。濡れた板ノリを天日干しにかけた後は、参加者で自動化したノリ作りの機械を見学しました。

およそ数日かけて天日でノリを乾燥させていただいたノリは市販品に引けを取らないように見えました。



(秋山 芳樹)

## せんごくの杜&近木川河口

### バードウォッチング

日付：2023年2月18日(土)

場所：せんごくの杜(10:00~12:00)

近木川河口(13:30~15:00)

参加者：30人(うちスタッフ10人)

毎年恒例の冬のバードウォッチング行事です。午前の部は貝塚市のせんごくの杜で里山の鳥たちを観察しました。こすもすの里バス停前で集合し、最初に双眼鏡の使い方の練習をしていると、昨年と同様に上空を舞うミサゴの姿を見つけました。せんごくの杜に隣接する千石荘病院跡地は広い草地のようになっており、ホオジロやカワラヒワの群れを見ることができました。カンコ池に向かう途中にはカワウが木にとまっている姿が近くで見え、生殖羽の白い羽根が出ている個体や魚を捕らえるためのくちばしの形状などを双眼鏡で観察しました。

カンコ池では水面や池の周囲にバンとオオバンがいて、2種の特徴や生態の違いを解説しながら観察しました。少し奥の水辺の茂みにはカワセミが止まっているのが見付き、フィールドスコープで拡大して姿を見ることができました。

せんごくの杜の中を歩いていくと、コゲラの「ギー」という鳴き声が聴こえ、近くの木に姿を発見しました。コゲラはスズメサイズの小さなキツツキですが、木をスルスルと上下に移動しながら木を突く様子が双眼鏡でもよく観察できました。





図1. コゲラ

開けた農地に出ると、カワラヒワの群れが一斉に飛び上がりました。電線にずらりと並んでとまり、「キリリ、コロロ」とよく鳴いていたのが印象的でした。そろそろ「ホーホケキョ」とさえずりはじめる時期のウグイスは、最後の方に茂みの中から「ジャッジャッ」という地鳴きが聴こえましたが、まださえずってはいないようでした。

午前のせんごくの杜では途中少し雨がポツポツ降ったりもしましたが、30種類の野鳥を観察することができました。せんごくの杜周辺の風景も年々変わっていきませんが、継続して観察することで、出現する野鳥の種類から環境の変化を知ることできるかもしれません。



図2. せんごくの杜で鳥見

午後は近木川河口で水辺の野鳥を中心に観察しました。自然遊学館をスタートして、まずは近木川右岸の阪神高速湾岸線の橋の下からカモの仲間を観察しました。河口の砂嘴にはヒドリガモやカルガモ、ホシハジロが多く休息していて、オナガガモやマガモ、オカヨシガモ、スズガモの姿もありました。今の時期はオスが綺麗な生殖羽になっており、頭や背中の色など図鑑で特徴を確認しながら観察しました。



図3. 近木川河口で鳥見

近木川の右岸を歩いていくと、汽水ワンドの周りの木々にはツグミやムクドリ、モズ、キジバトなどがいて、ツグミは地面に降りているのをフィールドスコープで観察して、胸を張ったような姿勢や白い眉斑などの特徴がよくわかりました。近木川の汽水域ではプロレスのマスクマンのような顔をしたコガモのオスや、白くて大きなダイサギ、イソシギ、ジョウビタキなど観察し、最後に左岸の河口部まで歩いてきたところで再びカモの仲間や干潟の波打ち際で餌を探すハマシギの群れやシロチドリを観察しました。

午後の近木川河口では36種類の野鳥を確認し、冬の河口で暮らす水辺の鳥たちの様子がよく観察できました。

**バードウォッチング 2023年2月18日**

目	科	名	せんごくの社	近木川
カモ目	カモ科	オカヨシガモ		○
		マガモ		○
		ヒドリガモ		○
		カルガモ		○
		オナガガモ		○
		コガモ		○
		ホシハジロ		○
		キンクロハジロ	○	
スズガモ		○		
カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	○	○
ハト目	ハト科	キジバト	○	○
		ドバト		○
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○
ペリカン目	サギ科	アオサギ	○	○
		ダイサギ	○	○
ツル目	クイナ科	バン	○	
		オオバン	○	○
チドリ目	チドリ科	ケリ	○	
		シロチドリ		○
	シギ科	イソシギ		○
		ハマシギ		○
カモメ科	セグロカモメ		○	
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	○	○
	タカ科	トビ	○	
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	○	
キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	○	
スズメ目	モズ科	モズ	○	○
	カラス科	ハシボソガラス	○	○
		ハシブトガラス	○	
	シジュウカラ科	ヤマガラ	○	
		シジュウカラ		○
	ヒバリ科	ヒバリ	○	
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○
	ウグイス科	ウグイス	鳴	○
	メジロ科	メジロ	○	○
	ムクドリ科	ムクドリ		○
	ヒタキ科	シロハラ	○	○
		ツグミ	○	○
		ジョウビタキ	○	○
		インヒヨドリ		○
	スズメ科	スズメ	○	○
	セキレイ科	ハクセキレイ	○	○
タヒバリ		○		
アトリ科	カワラヒワ	○	鳴	
ホオジロ科	ホオジロ	○	○	
	アオジ	○	○	
種数			30	36

(NPO 法人南港ウェットランドグループ 和田太一)

**ワークショップ**

**苔テラリウムを作ってみよう**

2023年3月12日、自然遊学館の2階で苔テラリウムの講座を開催することにしました。結果、とても好評いただき、大成功に終わりました。電話での参加受付の際、初日10分で定員となり、受け付けを終了せざるを得ないなど、いろいろと問題はありました。しかし、年齢や性別も幅広い方々にご参加いただきました。

開催までは全てが手さぐりでした。初めて行うワークショップで、しかもスタッフも苔の専門家はいなくて、ボランティアの方々が主体となる形式です。

そもそもの始まりは、市民文化祭で展示した苔テラリウムに関心が集まったことからです。昨今の流行りも後押しして、多くの方が足を止めて展示をご覧になり、昆虫を苔テラリウムで飼うという斬新な手法に興味をもってくれました。ひよっとしたら、この苔テラリウムの講座を開催すれば、関心事の違う方々にも自然遊学館のことを知っていただけるのではないかと。

中がよく見えるクリアなガラス容器を探して数をそろえるところから難航し、調査の度に美しい苔に注目するようになりました。アクセントとなる流木や小石なども拾って洗って準備しておきました。

当日、説明の後に、こちらが用意した材料を好きに選んでもらい、みなさんの思い思いに仕上げてもらおう形、バイキング形式とでもいうようなスタイルで作品を仕上げてくださいました。苔は奥が深く、簡単に種類がわかるものではありません。苔の専門家の方にも事前に種類などを教えていただき、今回使用する苔の名前と説明を写真とともにプリントして配布しました。

なんと素敵な作品ができあがっていくこと  
 でしょう。作者本人の想像力を掻き立てやす  
 くなるようにはこちらが心がけました。3月な  
 のに2階は温室のようで、暑い中ではありま  
 したが、集中した時間が続きました。みなさん  
 にはとても楽しかったと喜んでいただけ、会  
 場全体がとても満ち足りた空気に包まれてい  
 ました。

ライトで照らせば、苔が一層美しく見える  
 ように小さなライトも渡しました。自宅で、朝  
 日の中の苔の輝き、夜のライティングされた  
 苔の煌めき、緩やかな苔の生長、ナナフシがそ  
 の苔を食むという自然の循環。何かきっと、そ  
 れぞれの気づきがあると信じています。

(天満 和久)



図1. ワークショップのようす



図2. できあがった参加者の方の作品

今回、身近な動植物に興味をもつていただ  
 くための「きっかけ」を提供する体験行事も大  
 切ではないかと思いました。希望された方には  
 産まれたてのナナフシをこのテラリウムで  
 飼ってみてはと渡したり、終了後に自分で採  
 集した昆虫を入れてみようと言われた方には自  
 然生態園と一緒に採集をしたりもしました。



## 泉州生きもの情報

### 二色の浜に多く打ち上げられた タツナミガイ

タツナミガイ *Dolabella auricularia* は後  
 鰓目アメフラシ科に属する軟体動物です。体  
 長は25センチほどになり、やや扁平な円錐形  
 の体形で、後方は斜めに切断されたようにな  
 っています。背面には外套膜に包まれた薄い  
 殻があり、その殻の形を波頭に見立てて、立浪  
 貝という和名がついています。相模湾以南の  
 太平洋沿岸で主に見られ、水深2mほどの浅海  
 域に生息します。

二色の浜での記録は少ないですが（本誌98  
 号、2021）、2022年12月から2023年1月にか  
 けて、タツナミガイの打ち上げ死体が相次い  
 で見つかりましたので報告します。打ち上げ  
 られたタツナミガイは、半分干からびた状態  
 になっており、体長も縮んで、体色も変化して  
 いました（図1）。背面から覗いている殻を取  
 り出すと、波頭状の殻が出てきます（図2）。  
 これまでも二色の浜では、この殻だけが見つ  
 かっていただけでしたが、今回のシー  
 ズンのように死んで間もないタツナミガイが  
 浜辺に点々と転がっているようなことは、初  
 めての確認例だと思います。





図1. 二色の浜で打上がったツツナミガイ  
(2022年12月25日)  
登録番号 KCMN-Mo1057



背面から殻を取り出すと



図2. 二色の浜で打上がったツツナミガイ  
(2023年1月7日)

### 謝 辞

二色の浜に打ち上げられたツツナミガイの連絡を頂きました多くの市民の方にお礼申し上げます。

(山田 浩二)

### 自然生態園でカニムシの仲間を発見

2023年2月11日、自然生態園でカニムシを採りました。以前、家の庭でヒナカマキリの餌のトビムシを探していた時、はじめてカニムシに出会いました。捕まえて飼育してみましたが、すぐに死んでしまったので、また採り

たいと思っていました。

どこにでもいるので、きっと自然生態園でもいるだろうと思って探しました。枯葉や朽木があるような土を選んでとってきて、ふるいにかけてみました。バットの中でふるってみると、細かな土の中に動いているものが見えました。よく見たらカニムシでした。自然生態園でカニムシを採ったのは初めてのことでした。今回見つかった場所以外にも、この種がいる可能性は他にもありますが、まだ調べていません。もしかしたら、自然生態園には新たな別の種もでてくるかもしれません。引き続き、環境の違いなども考えながら調べてみたいと思います。



図1. 自然生態園で採集したカニムシの一種  
(自然生態園 2023年2月11日)

### 参考文献

佐藤英文 (2021) カニムシ 森・海岸・本棚にひそむ未知の虫, 築地書館、244pp.、東京都。

(自然遊学館わくわくクラブ 鞍井 希風)

### 自然生態園でトゲヒシバツタを採集

2023年3月25日、自然生態園のトンボの池でトゲヒシバツタを採りました。アンペライが生えているところに足を踏み入れると、ジャンプして出てきました。トゲヒシバツタ

と分かり、ああここにも居るんだなと思いました。自然生態園で見たのは初めてだったので、自然遊学館で確認してもらおうと、自然生態園では初めての記録でした。これまでは、馬場やせんごくの杜などで確認されているとのことでした。

トゲヒシバツタは湿地や田んぼの畦や河川敷などの湿った環境にいるヒシバツタの仲間です。広範囲に分布していますが、生息地では1または数匹しか見つけられないことが多く、ジャンプ力が強く、さらに飛翔して遠くまで飛ぶので捕まえることが少し難しいバツタです。本州のヒシバツタの中では大きい方で、前胸部が長く伸びており、側面には1対のトゲがあります。苔などを食べるといわれています。個人的にトゲヒシバツタはヒシバツタのなかでも好きな種類で、初記録だったのでうれしかったです。



図1. 自然生態園で採集したトゲヒシバツタ  
(自然生態園 2023年3月25日)

(自然遊学館わくわくクラブ 鞍井 希風)

## 生きた化石といわれる「ムカシトンボ」

2023年3月29日、貝塚市蕎原(東手川)でムカシトンボのヤゴを採りました。この日も遊学館の方々と調査に行きました。狙うはム

カシトンボです。均翅亜目の前翅と後翅の形がほぼ同じという特徴と、不均翅亜目のお腹が太いなどという特徴を合わせもつトンボです。

ムカシトンボは川の上流域の水の流れが激しいあたりで石にへばりついて生活しています。石をひたすらめくって探しました。なかなか見つからず、半分あきらめながらも手当たり次第に探していると、急流の横の小さな石の下からムカシトンボのヤゴが出てきました。一心不乱に探していたので、急に出てきて、ええーと固まってしまいました。



図1. 採集したムカシトンボのヤゴ  
(蕎原 2023年3月29日)

連れ帰り家で飼育することにしました。そして、4月6日に無事羽化を確認することができました。複眼の下側に黄色いアイラインが入っていることや、メスの腹部には黄色い斑紋が多く綺麗だったので驚きました。ムカシトンボは自分が思っていたよりも魅力的な色彩をしていて、自分の中で一番好きなトンボだと思いました。

## 参考文献

岩崎拓(2004)近木川の水生昆虫3:ムカシトンボ。  
自然遊学館だより, No.33:7-8.

(自然遊学館わくわくクラブ 鞍井 希風)



## 身近な植物

### ホトケノザとナズナ

2023年2月16日木曜日、まだ寒い中、貝塚市加神でシソ科ホトケノザの花が畝に群生していました(図1)。ホトケノザは葉の形が仏様の台座のように見えることから、この名前がついたようです。道端・田のあぜ道、コンクリートの隙間など色々なところに生えています。花期は3月～6月ですが、日当たりのよい場所では冬も花をつけています。



図1. ホトケノザの群生



図2. ナズナの群生

春の七草のホトケノザは、現在は黄色い花をつけるキク科コオニタビラコのことです。

また、この春の七草のひとつにアブラナ科ナズナもあります。ちょうどホトケノザのピ

ンクの畝が続く隣にネギの植わっている畝があります。こちらはネギの間を埋めるようにナズナが繁茂していました(図2)。ピンクの畝、白い畝の対比がきれいでした。

(湯浅 幸子)



## 調査速報

### 貝塚市二色の浜と近木川周辺の鳥調査 27

1月から3月の近木川河口と二色の浜周辺を調査しました。

10月頃から増え始めたカモたちも徐々に繁殖のために移動を始めて、だんだん少なくなっています。

近木川河口を遡上すると川幅を広げるための工事が行われていて、その場所は鳥が少なかったのですが、シギやチドリが観察しやすい場所になっていたため、今後は生きものが生息しやすい環境になることを願っています。

二色の浜公園周辺を観察しているとツグミを確認することができます。冬の間は、よく公園などで確認することができます。



ツグミ

(近木川河口 2023年2月17日)

(鈴子 勝也)





## 館長コーナー

### 新たなスタイルの『自然遊学館だより』

『自然遊学館だより』は平成6年第1号発刊より季刊誌として今回106号まで発行をしてきましたが、本年の開館30周年を機に、これまでの文字中心のたよりから、標本のデジタル化や調査で撮影される、カラー画像を中心に調査速報や自然遊学館の活動をご覧いただくことを計画しています。

従来掲載されていましたが調査報告などの詳細報告は『貝塚の自然』に内容をさらに充実させ、掲載することになっています。

館内も改修され30周年の自然遊学館、いろいろな企画を予定しています。ぜひご参加ください。

(秋山 芳樹)



## 皆様からの情報コーナー

### 飼育日誌

#### 長寿のカブトムシ

子どもがカブトムシを捕まえてみたいと私に話してきたのが始まりです。2022年8月6日に、水間公園に探しに行くことになり、一匹のメスのカブトムシを捕まえました。そのまま連れて帰り、子どもが「カブちゃん」と名付けて飼育することになりました。

数年前に一度だけ譲ってもらったカブトムシを飼育したことはありましたが、9月頃に死んでしまったので、今回も長生きしても9月か10月までだろうと思っていました。

捕まえた次の日にホームセンターで針葉樹

のマットとリンゴ風味のゼリーを購入し、飼育ケースに移し替えると、すぐに潜っていきましました。夜になると地上に出てきてゼリーを食べていました。リビングで飼育していたので、子どもがよく姿を見たがっていましたが、ひんぱんに掘り返すとストレスがかかるのではないかと思い、だいたい1日か2日に1回晩に霧吹きでマットに水やりをしていたので、その時にふれあいの時間を作っていました。深夜になると活発になり、飛んでいる音やカサカサと動き回る音で慣れるまでは寝不足になる日もあるくらい元気でビックリしました。

飼育してから1週間ほどたった時に気づかない間にフタをこじ開けて脱走して食器棚の隅から出てきたのを偶然見つけたということもありました。半日ぐらいは徘徊していたと思います。土に潜っているとばかり思っていたので、遭遇した時はゴキブリかと思いました。前日にフタが閉まっているかも確認したし、オスは角もあり、力もあるけれど、角もない体の小さいメスなので、こんな力を発揮することに驚きました。その後は、脱走防止対策をしました。

8月20日頃、カブトムシはバナナを好むことを知り、バナナを与えると食いつきがすごく、それ以降はゼリーをおいても食べなくなりました。その日から毎日欠かさずバナナをあげることになりました。たまにリンゴをあげてみたもののあまり食いつきはよくありませんでした。バナナをあげだしてから、地上にいる時間が多くなり、子どもたちも喜んでいました。ただ、ゼリーよりも傷むのが早いので毎日のエサ交換がけっこう大変でした。

バナナに夢中になっている時に触ると、後ろ脚で蹴られることがあり、カブトムシのこのような動作を見たのは初めてでした。

飼育をはじめて観察することですいろいろな

発見があったり、気づけば10月をこえていて、長くても今月いっぱいかなと思っていましたが、元気なまま11月を迎えました。

その頃からなぜかわかりませんが、昼夜を問わず地上に出てくるようになり、毎日ではないけれど日中見かけることが増えました。

朝、家族が起きてしばらくすると、土を掘って、土の中からケース越しに外の様子を覗いているかのように目が合ったり、朝の支度をしていると地上に出てきたりすることがよくあったので、勝手な想像ですが、カブトムシにも、例えばエサなどを要求したり、何か意味があってそういう行動をするのかと思うようになりました。

11月に入ってからは、夏に比べて寒さが増し、このままでは寒さで死んでしまうのではと思い、幼虫の飼育で温度管理をしたりする記事をネットで見たので、正しいかわかりませんが、小動物用のパネルヒーターを購入し、飼育ケースの下に設置して温度管理を始めることにしました。成果があったかは不明ですが、変わらず元気に過ごしてくれました。

12月に入り、12月13日に左前脚のふ節が取れてしまいました。餌の食べる量が減った日が多くなってきましたが、まだまだ活発で元気でした。当初思っていたより、長生きしてくれて子どもと世話をしているうちにとっても愛着がわき、12月まで生きたなら、頑張っただけは年を越してほしいと願うようになりま



無事に年を越してくれて1月になり、動きの方は8月の頃よりは少し衰えたけれど、翅を広げて飛ぼうとするくらいの元気もあり、「冬にカブトムシがいるって何か不思議な感じだね」と子どもと話しました。

クリスマスなどのイベントに合わせてカブトムシを写真におさめているのが不思議で楽しかった記憶があります。



1月中旬あたりから動きまわる元気はあるものの、少し動きにも衰えが出始めて、エサの食べる量も確実に減りました。

2月に入ってからは、以前より土の中に潜っていることが多いような気がしました。2月23日、動きの鈍さが目立ち、エサも全然減らなくなり、25日には口のブラシ状の部分が伸びてしまい硬くなっていることに気づき、その日から飼育ケース内でも地面でひっくり返ることが多くなりました。なんとか土に潜ることはできるのですが、地上にいる時間がずいぶん増え、数日後には体のバランスが取れなくなり、3月2日にカブちゃんの飼育を終えることになりました。



家にきてから6ヶ月と27日つまり208日間飼育をすることができました。そのことを自然遊学館の方にも伝えて、記録として残した

めに記事にさせていただきました。また、自然遊学館のジュニア学芸員の方に生きているようなまでの標本に仕上げてくださいました。

(貝塚市 高橋 千尋)

## 寄贈標本

### <魚類>

- ◆児嶋康成さんより  
キンチャクダイ 打上げ1点  
貝塚市二色の浜 2023年1月9日採集
- ◆湯浅章葉さんより  
テンジクダイ 打上げ3点  
貝塚市二色の浜 2023年1月25日採集  
ヒフキヨウジ 打上げ1点  
貝塚市二色の浜 2023年1月26日採集  
テンジクダイ 打上げ1点  
貝塚市二色の浜 2023年2月20日採集  
ウグイ 打上げ1点  
貝塚市二色の浜 2023年3月3日採集
- ◆中新遥希さんより  
コンゴウフグ 打上げ1点  
貝塚市二色の浜 2023年2月11日採集
- ◆岡田浦漁業組合さんより  
ガンギエイ類の卵殻卵 生体1点  
大阪湾(底引網) 2023年3月11日採集



ガンギエイ類の卵殻卵

### <原索動物>

- ◆安房田智司さんより  
リッテルボヤ 生体1点  
ミハエルボヤ 生体1点  
貝塚市二色の浜突堤 2023年1月6日採集

### <軟体動物>

- ◆安房田智司さんより  
ヤマトウミウシ 生体1点  
ミヤコウミウシ 生体1点  
貝塚市二色の浜突堤 2023年1月6日採集
- ◆湯浅章葉さんより  
ユキガイ 打上げ生体1点  
ハボウキ 打上げ生体1点  
貝塚市二色の浜 2023年1月26日採集
- ◆丸山幸代さんより  
エンザグルマ 打上げ1点  
貝塚市二色の浜 2023年2月17日採集  
ミミズガイ 打上げ2点  
ムラサキガイ 打上げ1点  
貝塚市二色の浜 2023年2月19日採集  
アシヤガイ 打上げ1点  
貝塚市二色の浜 2023年2月20日採集
- ◆児嶋康成さんより  
マナマコ 打上げ生体1点  
貝塚市二色の浜 2023年3月12日採集

### <棘皮動物>

- ◆湯浅章葉さんより  
オカメブンプク 打上げ1点  
貝塚市二色の浜 2023年2月20日採集

### <環形動物>

- ◆湯浅章葉さんより  
スジホシムシモドキ 打上げ生体1点  
貝塚市二色の浜 2023年1月25日採集  
タマシキゴカイ 打上げ生体1点



フサゴカイ科 打上げ生体 1点  
貝塚市二色の浜 2023年1月26日採集

### <甲殻類>

- ◆湯浅章葉さんより  
タイワンガザミ 打上げ生体 5点  
シャコ 打上げ 1点  
スネナガイソガニ 打上げ生体 1点  
貝塚市二色の浜 2023年1月25日採集



シャコ

- ◆岡田浦漁業組合さんより  
ツノガニ 生体 1点  
ウデナガヒシガニ 生体 3点  
トゲツノヤドカリ 生体 1点  
大阪湾（底引網） 2023年3月11日採集

### <昆虫>

- ◆上川誠志郎さんより  
ウスタビガ幼虫 多数  
阪南市和泉鳥取駅 2022年11月5日採集
- ◆岡田幸大さんより  
セグロアシナガバチ 巣 1点  
貝塚市千石荘 2022年12月採集
- ◆常道武士さんより  
クマゼミ 羽化殻 2点  
貝塚市澤 2023年1月4日採集
- ◆福島秀人さんより  
コガタスズメバチ 巣 1点  
貝塚市二色 2023年2月15日採集

### <その他>

- ◆濱田兆子さんより  
（故）濱田仁志氏所有  
チョウ類標本・書籍・展翅板等多数  
2023年1月12日寄贈
- ◆松谷末廣さんより  
昆虫標本 29箱  
2023年3月30日寄贈

### 死体情報

#### <鳥類>

- ◆湯浅章葉さんより  
オナガガモ ♂ 1点  
2023年2月1日確認



### スタッフ日誌

1月19日、貝塚市立津田小学校6年生の教室で行われた海辺の生きものの環境学習に行きました。ゲストとして二色の浜で漂着物を調べられている地元の丸山さんと、高知県柏島にある黒潮実感センターの神田さんが来られました。貝塚市と高知県西部に位置する栢島の海辺の違いや共通点について、お話を聞き、翌日の20日には近木川河口の海辺で現地観察会を行いました（山）。

2月22日～3月7日、雑木林の動物たちを展示しているジオラマの改修や、新しい展示棚「イワシの群れ」の設置、トイレの改修の工事のため、臨時休館になりました。（スタッフ全）

3月1日、館内のトイレが改修され、開館当初のものから最新のものに代わりました。和式から洋式になったのに加え、手洗い蛇口はセンサー式になりました。（スタッフ全）

## ◎ お知らせ ◎

### YouTube チャンネルを開設

館内にWi-Fi環境が設置されたことに伴い、遅ればせながら、3月31日に、自然遊学館の公式 YouTube チャンネルを開設しました。

## 貝塚市立自然遊学館

**YouTube** チャンネル



館内の展示、貝塚市内の生きものの記録、行事や調査の報告などをアップしていく予定です。よろしく、お付き合いください。



館内限定公開の展示キャプションの例

生体展示している動物の食事のシーンや、数年前の小さかった時の様子など、館内限定公開にしているものもあります。ご来館の際には、水槽などに貼っている展示キャプションのQRコードを読み取り、ご覧ください。

自然遊学館だより 2023 春号 (No.106)

### 貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

ホームページ

<https://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/sizenyugakukan>

発行日 2023.5.31

この小冊子は店内印刷で作成しています。